



《新型コロナ第4波の兆し》

二度目の緊急事態宣言が解除され、週末の市内の状況を見ていると人の出が増えたなという印象があります。防災ラジオでもこのところ毎日のように『市内で感染者が出ました』というような放送を皆さんも耳にしているかと思います。

現在、石岡市には新型コロナウィルスを治療できる中核となる病院がありません。

石鹸での手洗い・手指消毒アルコールで手を清潔に保つ、マスクの着用、対人距離（ソーシャルディスタンス）の維持。自分自身や家族、友人を守るためにも、これまで幾度となく言われてきたことをしっかりと守っていきましょう。

ワクチン接種の通知書が私にも届きました。通知書をよく読み、接種に際しては主治医や市役所の保健師さんに相談することをおすすめいたします。

《待ったナシの地域医療》

これまで、急激に押し寄せる高齢化、産科・小児科の充実、緊急診療の再開などについて議論がなされてきましたが、現状良い結論に至っていません。

この石岡市が抱える病院問題について、私はこれまでも石岡第一病院（地域医療振興協会が運営）と休止している医師会病院を再編統合し、国や県の援助を活用しての公立病院設置、加えて山王台病院への病床の再分配が、現状石岡市にとって有利なことだと訴えてきました。



（2/9 地域医療振興協会にて、
写真右端が吉新理事長）

一方市議会議員の中には、国や県の援助を受けず、市の一般財源（税金）の中から年間数億円を持ち出し、民間病院へその運営を委託することが有利であるとの意見もあります。（石岡市が永久に負担することに）

公立化に反対する理由として、「病院経営が赤字になると大変だ」ということを危惧しているようです。これに対して地域医療振興協会から「石岡市から赤字の補填は受けない」との返答を受けても、「そんなものは信用できない」と元も子もないような反論をしています。

ニュースなどで“医師不足”が大きく取り上げられることがあります。これを解消していくためには地域医療振興協会と連携を取ることが不可欠です。実際地域医療振興協会は課題である常勤の産科医を3人も確保してくれていました。

そもそも人の生死に関わる地域医療の問題において赤字、黒字の議論を優先することはいかかなものでしょうか。意固地に何かに付けて屁理屈を言い合っているのが、私から見た石岡市議会の現状であります。市民の皆さんはどのように考えるでしょうか？

請願① ○公立病院を視野に入れた調査費の予算採択を求めます。

請願②

○今後 10 年間の石岡地域の医療環境についてどうあるべきか、議会の見解を市民に示していただくことを求めます。

○石岡地域医療計画の推進に向け、地域医療振興協会の示す条件を前向きな視点でとらえ、議論・審査されることを強く求めます。

○「石岡医療計画」の実現に向けて、必要な措置を行っていただくよう求めます。

令和3年1月28日、市民 15,119 名の署名が添えられ、上記 2 つの請願が提出されました。3月の議会において、請願①は採択されましたが、請願の内容をしっかりと理解しようともせず、請願②は不採択となっていました 15,119 名もの市民の声に対しあまりにも不誠実な判断でした。（詳しくは、議会中継録画、または次回の議会報をご覧ください）

令和3年2月5日の全員協議会で「地域医療振興協会が新型コロナウイルスの影響で、2病院再編統合を白紙に戻す」との報告がありました。コロナ禍においてなお協力的であったはずの地域医療振興協会がそれを理由に態度を変えたのは、これまでの議会を含めた石岡市の対応の悪さに嫌気が差したのだと感じました。

令和3年2月9日、衆議院議員・国光あやの氏の案内で地域医療振興協会の本部を訪ねました。訪問したメンバーは、署名活動を先導した市民代表3名と大和田議員と私。1時間という制約のもと、諦めきれない市民の気持ち、石岡の地域医療のあり方を十分に訴えたところ、その誠意を理解していただき、再編統合について、再度話し合いを行うことを約束していただきました。

国光議員は地域医療振興協会の吉新（よしあら）理事長に「今後も石岡の救急や産科医療のために、引き続き医師派遣などの協力をしていただきたい」との依頼をし、吉新理事長からは「市からの要請があれば、もちろん誠実に対応する」との回答を得ました。

※地域医療振興協会は自治医科大学の関係者等で運営され、主に日本の僻地医療や経営が思わしくなくなった病院経営を依頼される公益社団法人で、本来であれば石岡市が頭を下げてお願いに上がる案件です。これまでの議会側の発言・市の対応の悪さは目もあてられないものです。

※北茨城市では、市民一人に対しこれだけの税金をかけるとの政策で市民病院をつくり、常陸大宮市でも、社会福祉法人の協力を得て、現在地域住民のための地域医療を確立しています。

地域の医療に関してもっと多くの市民の声をあげ、もっと多くの民意を議会に示す時です！！

他市町村から転入された方から「病院が少ないね」と言われることが多い。早期の医療整備の実現を！

T・A 男性

〈かくありたい街、石岡〉生まれてきてよかった街石岡。住んでみてよかった街石岡。ずっと住み続けたい街石岡。このような街石岡が、近隣の市や町から「安心して住むことのできる上医の街」とうらやましがられる地域医療の充実した街になることを願っています。

T・Y 男性

市民にとって救急対応、又はかかりつけの医療機関が市内にあることは一番の安心です。

R・H 女性

公設民営化ならば国から交付税が年間 1.8 億円いただける。石岡のために活用することを望みます。

S・T 男性

市民の声

石岡医師会病院の廃院問題に危機を感じて怒涛の素人署名活動成果として、市議会に再議論のきっかけを与えたことは石岡市民も決起すれば、出来ると感じました今回の医療問題だと思えます。石岡地域の医療が良くなることを期待します。

M・T 男性

身近な病院は市民のバックボーンです。病気にならない人なんかいないのに、身近な病院がなくなると不安がつのります。休日・夜間診療が身近に、まして赤ちゃんが近くで生まれたら最高です。市民の希望です。

Y・F 女性

人口増になるような政策でないこの市に将来はない。カップルが安心して子供を生み育てられるような市であって欲しい。

T・S 男性

地域医療振興協会から提案のあった内容を基にした十分な調査と計画をお願いします。そして命は待ってられません。1日も早い計画と実行をお願いします。

K・S 男性